



なぜ、大学に行く必要があるのか？
 本当に向学心を持って大学に行っている学生は、どれだけののだろうか？
 現在、少子化が進む中、大学の存続や運営に大きくメスが入れられている。今こそ、「本来の大学のあるべき姿」を、ただす時ではないだろうかと思われる。
 正直なところ、私は大学受験に失敗し、残念ながら門をくぐってはいない。
 しかしながら、ここ数年非常に興味のある分野ができ、専門に研究し、なら

ジーアンドエス社長 萩原 扶未子

かの形にまとめたいという希望が湧きおこっている。そこで、今の自分の環境で通うことのできる付記した条件の大学を探してみた。
 ▼一般入試ではなく、社会人入試がある▼夜間や土、日でのカリキュラム▼大学院も同様のカリキュラム方式で併設▼通学可能な場所にある
 数校はかろうじて条件をクリアできず

社会人大学

てい。大学によっては、通いやすいように郊外の本校ではなく、都市部の便利なところに、サテライト校を設けているところもある。
 社会人大学生の希望が急激に増えた理由に、社会情勢が厳しくなり、いったん社会人となった人たちが、自己向上のために専門分野

めない。充実した講習にしようとするスクーリングとの併用になるが、年にあわせて三週間近く仕事を休み、交通費と宿泊費の負担を考えると、難しいと言わざるを得ない。
 義務教育と違い本来大学は学びたい専門分野を探求するために行くところであ

を割いてやってくる社会人学生は、学ぶ姿勢においても格段の違いがある。こういった学生が増えれば、必然的に大学内の雰囲気や、もちろん質が変わってくるのではないだろうか。
 現状では、地方で働きながら大学で自己向上をめざすのは、受け入れ大学側の開かれた体制を待つしかない。柔軟性のあるカリキュラムを生み出すには、費用面や講師陣の負担もあり、なかなか難しいだろうが、ぜひ、各大学の努力を切望したい。また、地方で大学への道をあきらめている方々は、あきらめずにこまめに希望大学の入学要綱をチェックされることをお勧めする。